

## 日本の英語教育

2020年の東京オリンピック開催を目前に、日本の英語教育に変化が生じている。日本における英語教育は、2011年4月から「外国語活動」として公立小学校5、6年生で週1コマ、年間35時間必修で実施されるようになっていた。さらに2013年の新学習指導要領により、2018年からは小学3年生からのスタートに繰り下げ、小学5、6年生は成績評価を下す「教科化」になることが決定した。2020年には公立全ての小学校での完全実施を予定している。

文部科学省は、日本人の英語の運用力の低さを大きな課題と見ている。2015年、英語の4技能の国際的なレベルを図るため、高校三年生約七万人を対象にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR スコアレベルは最低ランク A1 から最高ランク B2 までの4段階)が

行われた。日本人の得点は A1 の上位から A2 の下位レベルに集中しており、さらに「書くこと」の無回答者は全体の 29.2%、「話すこと」の無回答者は全体の 13.3%を占めている。2010年のアジア 30 カ国との TOEFL の得点の比較では、日本は 27 位であり、10 位の韓国、16 位の中国と比較しても差がついている。

近年韓国における 10 代の英語力が伸びていることは、1997 年から小学校 3 年生に週 2 回英語の授業を取り入れたことが大きいとされている。日本でも英語教育を早期に始めることが吉と出るのか、あるいは導入の混乱にうまく対応できず効果はないのだろうか。